

○用語の解説（五十音順）

《あ行》

◆ I T

情報技術（Information Technology）の略称。情報（コンピューター）・通信の工学及びその社会的応用分野の技術の総称。今日では、各種情報の収集・加工・発信などに不可欠なものとなっている。

また、ほぼ同義語として情報通信技術（Information and Communication Technology）、略称 I C T が用いられることもある。

◆ I T 基本法

正式名称は「高度情報通信ネットワーク社会形成基本法」で、2000年11月29日に成立した。大容量データの高速通信を可能にする情報インフラの整備、I T 化の障壁となる従来型システムの改善を図るため、国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部の設置や重点計画の作成について定めた法律。

◆ e-Japan 戦略

I T 基本法に基づき設置された「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部」において国家戦略として決定されたもの。

◆ N P O

Non Profit Organization の略。非営利活動組織のこと。利潤の追求や利益の配当を目的としないで、自主的・自発的に公共的な活動を行う組織や団体のこと。

《か行》

◆ 街区公園

誘致距離250mの範囲内で1カ所あたり面積0.25haを標準とする都市公園。

主として街区（道路又は水路等の公共用地に囲まれた一団の土地のこと）内に居住する者の利用に供することを目的とする。

◆ 合併処理浄化槽

し尿と生活雑排水（台所、風呂、洗面所等の排水）を併せて処理できる浄化槽のことで、し尿だけしか処理できない単独処理浄化槽に比べ、水質汚染物質の削減率が極めて高い。

◆ 寡婦

以前に配偶者のいない状況で児童を扶養し、かつ、現在配偶者のいない女性。

◆ 救急医療

入院治療を要しない軽度の救急患者を対象とする初期救急医療、入院治療を必要とする救急患者を対象とする2次救急医療、高度の検査・手術を要する重篤救急患者の救命医療を行う3次救急医療にわけられる。

◆ コーホート要因法

コーホートとは、同年（同期間）に出生した集団のことをいい、コーホート法とは、その集団ごとの時間変化を軸に人口の変化をとらえる方法。例えば、ある地域において観測された20～24歳の人口は、5年後には25～29歳に達する。その年齢集団は、20～24年年前に出生したものであり、その人口集団を年次的に追跡し、軌跡の変化量変化率を用いて推計する。

◆コミュニティ

一定の地域において、共同の社会生活を営むことによって形づくられる集団で、一般に共同体、地域社会、共同生活体と訳されている。

《さ行》

◆自動体外式除細動器（AED）

電気ショックが必要な心臓を判断し、電気ショックを与える医療機器。心臓が痙攣したように細かく震え、血液を送り出すポンプ機能が失われる重い不整脈（心室細動）に対し、一時的な電気ショックで震えを取り除く。

◆食育

食に関する知識や、食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人を育てること。近年の食に関する諸問題を踏まえ、生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるものとして推進されている。

◆スクラップ・アンド・ビルド

組織、事務事業の肥大化防止策。行政組織内の部署を新設する場合に、同等の組織の統廃合を同時に行うこと。

◆全国瞬時警報システム（J-ALERT）

通信衛星と市町村の同報防災行政無線を利用し、緊急情報を住民に瞬時に伝達するシステム。対処に時間的余裕のない大規模な自然災害や弾道ミサイル攻撃等についての情報を、国から住民まで直接瞬時に伝達することができるという点が最大の特長。住民に早期の避難や予防措置などを促し、被害の軽減に貢献することが期待されており、導入により地方公共団体の危機管理能力が高まる。

◆総合的な学習の時間

各学校が地域や学校、生徒の実態などに応じて、教育の枠を越えて学習内容の共通・関連する部分を考慮しながら計画した学習や、興味・関心などに基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う時間。

《た行》

◆男女共同参画社会

男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かちあい、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会。

◆地域包括支援センター

地域住民の心身の健康維持や生活の安定、保健・福祉・医療の向上、財産管理、虐待防止など様々な問題に対して、地域における総合的なマネジメントを担い、課題解決に向けた取り組みを実践していくため、専門職を配置し設置した施設。

◆特別支援教育

これまでの特殊教育の対象障害だけでなく、学習障害、注意欠陥・多動性障害、高機能自閉症等も含め、障がいのある児童・生徒に対して各人の教育ニーズを把握し、当該児童・生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うもの。

◆特定健康診査（特定健診）

糖尿病その他政令で定める生活習慣病に関する健康診査（高齢者の医療の確保に関する法律第18条第1項）。平成20年4月から実施。

それまで市町村が40歳以上の住民を対象に実施していた基本健康診査に代わり、40歳から74歳の方には医療保険者（国民健康保険、健康保険組合、政府管掌保険、共済組合など）が、75歳以上の方には都道府県が設置する後期高齢者医療広域連合が実施することになった。

この健診は、日本人の死因の多くを占める生活習慣病の発症に深く関係しているメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した健診で、メタボリックシンドローム該当者・予備群を早期に発見し、生活習慣の改善を図ることで病気の発症と重度化を防止することを目的とする。

◆特定保健指導

特定健康診査の結果から、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できる方に対して、専門的知識・技術を持った者（医師・保健師・管理栄養士等）が、対象者に合わせた実践的なアドバイス等を行う。

《な行》

◆認定農業者

農業経営基盤強化促進法に基づき、経営を改善するための計画（農業経営改善計画）が、①市町村基本構想に照らし合わせて適切であり、②計画が達成される見込みが確実で、③農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために適切である、との基準に適合するとして市町村から認定を受けた者。認定農業者には、低金利融資制度、農地流動化対策、担い手を支援するための基盤整備事業等の各種施策が重点的に実施されている。

◆農地流動化

経営規模を拡大したい農家や生産組織に対し、効率的な生産活動が行えるよう農用地を集めたり、相互に補完し合うこと。

◆ノーマライゼーション

障がい者と健常者とは、お互いが特別に区別されることなく、社会生活をともにするのが正常な姿であるという考え方。

《は行》

◆バイオマス

動植物由来の有機物。家畜の糞尿、おがくずや木材加工端材、稲わら等を用いて、燃焼、熱分解、微生物による発酵等により発電、発熱させ、エネルギーとして利用する。

◆廃止路線代替バス

従来のバス事業者が運行するバス路線が廃止された後、そのバス事業者に代わって市町村又は貸切バス事業者が、やや柔軟な条件のもとで運行する乗合バスのこと。

◆バリアフリー

障がい者や高齢者の生活や活動に不便な障害を取り除くこと。階段の代わりに緩やかな坂道をつけたり、段差をなくすなどがその例である。

◆PDCAサイクル

Plan/Do/Check/Actionの頭文字を揃えたもので、計画（Plan）⇒実行（Do）⇒検証（Check）⇒改善（Action）の流れを次の計画に活かしていくプロセスのこと。

◆平均乗車密度

乗車人員を1便あたりに換算した値。運送収入÷実車走行キロ÷平均賃率で表される。

《ま行》

◆モータリゼーション

生活の自動車化。自動車の大衆化。自動車が必需品として一般生活に欠かせなくなる現象のことを指す。

《や行》

◆有機農法

化学肥料や農薬の使用を控え、有機肥料を利用して安全な食糧生産をめざす栽培方法。

◆ユニバーサルデザイン

文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がい・能力の如何を問わずに利用できる施設・製品・情報の設計（デザイン）をいう。

◆ユビキタス・ネットワーク

あらゆる情報端末、機器（ICチップを搭載した）物品が、有線又は無線の多様なネットワークにより接続され、いつでもどこからでも様々なサービスが利用できるようになるネットワーク環境、利用環境のこと。

◆4R

- ①Refuse（リフューズ）：不要なものを買わない。過剰包装やレジ袋を断る。
- ②Reduce（リデュース）：ごみを減らす。（使い捨て商品を買わない など）
- ③Reuse（リユース）：再使用する。（修理して使う。フリーマーケットやバザーの活用など）
- ④Recycle（リサイクル）：再生利用する。

《ら行》

◆ライフライン

日常生活を維持するために必要な生命線のこと。具体的には、電気・ガス・水道・下水道・電話・食糧流通などを指す。

◆ローリング

計画期間は同じ年数を保ちながら、当該年度を初年度として見直し・修正をし、中・長期計画を実施すること。